

④障害児支援体制について

Q 障害児のいるご家庭は、ご本人と家族が日々懸命に向き合い、医療・介護従事者をはじめ支援者がサポートにあたっています。支援体制について改めて整理したいと思います。

保健福祉局からの回答
主な通所療育として、未就学児向けの児童発達支援、就学児向けの放課後等デイサービス、集団生活への適応を支援する保育所等訪問支援があります。また、重度の肢体不自由などで入浴・排泄に支援が必要な児童や、外出時の危険回避など特別な支援が必要な児童には、訪問支援や短期入所などを組み合わせて提供しています。



Q 課題と、その対応策は何ですか。

保健福祉局からの回答
軽度の障害に対応できる事業所は増えている一方、重度障害や医療的ケア児に対応できる事業所が限られることが課題です。また、卒業後の通所サービスは16時頃までが一般的で、保護者の就労と両立が難しくなる場合があります。時間延長を行う事業所の案内や、日中一時支援の活用により、長時間支援につながるよう対応しています。

わたなべからの意見・要望

重度の障害児、医療的ケア児へのサービス提供に課題があることが分かりました。引き続き対応の方をよろしく願います。また、私の方にも様々な声がありまして、例えば障害のあるお子様がいる家庭において、ファミリー・サポート・センターを利用されている方からは、障害については18歳まで使えるようにしてもらえれば助かるといった意見もありました。また、移動支援においては、通学に対する支援に使えるよう、より拡大を求める意見も聞いております。また、答弁にもありましたが、支援学校や放課後等デイサービスを卒業してから受入れ先が見つからないという悩みも伺うことがありますので、既に様々な対応をいただいていることについて感謝を申し上げますが、引き続き対応の方をよろしく願います。

わたなべただひろの活動報告

「千葉市二十歳のつどい」に参加

「千葉市二十歳のつどい」(午前の部)に来賓参加しました。二十歳の決意も熱い思いが伝わってきました。10代でコロナ禍を耐えた世代が希望が持てる社会にしたいとあらためて思いました。二十歳の皆様、おめでとうございます!



千葉市戦没者追悼式に市議として参列

出征先で亡くなられた方々、市内で空襲で亡くなられた方々に追悼の意をささげました。戦後80年、次の世代にどう引き継いでいくかも課題であると感じました。



千葉市立郷土博物館リニューアルオープン式典

千葉市立郷土博物館(千葉城)リニューアルオープン式典へ伺いました。演舞や葛城中吹奏楽部の演奏素晴らしかったです。式典後は館内を見学。時代ごとの展示となり、以前より充実した内容に、多くの市民の方々も楽しまれていました。車椅子トイレ広く、スロープもあります。皆様も是非お越しください!



幕張ビーチ花火フェスタ

昨年に続き「ビーチ打上花火車椅子席」が設置されました。今年も自分も購入し伺いました。多目的トイレも増設されており、車椅子使用の方々が多数来られていました。一昨年議会で「砂浜車椅子席」設置提案から、実現、さらに改善と続いていることは嬉しいです。実行委員会や千葉市の関係者の皆様のご尽力に感謝します!



令和8年度予算要望書を神谷俊一市長に提出

「日本維新の会ちば」の会派で作成した令和8年度予算要望書を神谷俊一市長に提出。市長や当局には、政策協定や会派議員の一般質問などで意見を聞いてもらっていますが、会派での要望書提出は初。引き続きより良い市政のため様々な形で提案要望をしていきます。



わたなべただひろは市民相談を随時受付中!

☎080-4668-1168 ✉watanabe.tadahiro.chiba@gmail.com

わたなべただひろプロフィール

- 1987年3月生まれ(現在38歳)
- 筋ジストロフィー・デュシェンヌ型
- 10歳から歩行困難で、14歳から電動車椅子使用
- 幼小中高を習志野市・千葉市の普通校で過ごす
- 2002~2005年 千葉県立幕張総合高校
- 2005年 早稲田大学社会科学部入学
- 2009年4月~2011年9月 早稲田大学大学院・政治学研究科修士課程修了
- 2012~13年 日本福祉教育専門学校で社会福祉士取得
- 2014年7月 NPO法人ユニバーサル・アクセス・デザインズの設立
- 2014年7月 アクセシビリティデザイン訪問介護事業所設立
- 2023年4月 千葉市議会議員選挙に日本維新の会公認で初当選

公式HP



議会報告レポート
2026年(令和8年)2月号

日本維新の会 中央区

今も未来も、暮らしやすい千葉市へ!

千葉市議会議員

わたなべただひろ

発行者 渡邊惟大

〒260-8722千葉市中央区千葉港1番1号
千葉市議会 日本維新の会ちば 控室

TEL 080-4668-1168

E-mail watanabe.tadahiro.chiba@gmail.com

※市政に対するご意見をお寄せください



令和7年第3回定例会と第4回定例会の私一般質問について、まとめてご報告させていただきます。

12月の第4回定例会では、特別職(市長等)や議員期末手当の引き上げについて審議されましたが、反対の立場を取りました。今後も、少数会派だからこそ色々な姿勢でチェックを続け、必要な改善を粘り強く進めてまいります。

皆様にとって令和8年が健やかで実り多い一年となりますよう祈念いたします。

令和6年3月に議会で指摘した市立特別支援学校名称変更が実現!

※毎日新聞でも報じられました!

令和6年3月に議会で指摘した市立特別支援学校の名称変更が実現します。令和8年4月に、千葉市立養護・第二養護学校は「千葉市立特別支援学校・第二特別支援学校」へ名称変更されます。

2007年(平成19年)の学校教育法改正により、障害児教育の学校は「特別支援学校」に一本化され、多くの自治体で「養護学校」から名称変更が進みました。しかし千葉市の市立特別支援学校は「養護学校」の名称が残っていました。

そこで令和6年3月の議会で、全国47都道府県のうち32府県では養護学校が全て特別支援学校へ名称変更されていることや、遅れている印象を指摘し、当事者・保護者・教職員の声を尊重して広く議論すべきと提案しました。議会で取り上げられたのは17年ぶりでした。

今回の一般質問で確認したところ、令和5年度から検討を開始し、児童生徒・保護者へのアンケートで変更希望が多かったため実現に至ったとのことでした。あわせて、今後も児童・保護者や社会状況に応じて柔軟に対応するよう求めました。



令和7年第3回定例会 一般質問の概要ご報告

こちらのQRコードから令和7年9月30日定例会での一般質問の動画(字幕付き)がご覧いただけます。



①バリアフリー観光について

Q 令和元年に作成されたガイドマップについて、作成の経緯・目的を教えてください。

経済農政局からの回答

東京2020大会を契機に、杖や車椅子利用者にモニター協力いただき、現地調査・ヒアリング等情報検証を行い作成しました。「海・まち・里」をテーマに、体験を組み込んだコース紹介と、各施設のバリアフリー情報をピクトグラムで示しています。

Q 千葉市バリアフリー観光ガイドマップの更新予定はありますか。

経済農政局からの回答

高齢者や障害のある方が安心して観光できるよう、掲載情報の更新と観光施設のバリアフリー情報の紹介に努めます。

Q 千葉市主催・関係イベントにおいて、障害者・高齢者への配慮はどのように行っていますか。

経済農政局からの回答

例として幕張ビーチ花火フェスタでは、車椅子利用者が安全に移動できる通路確保、専用席の設置、仮設多目的トイレの設置などを実施しています。委託事業者や出店者にも合理的配慮の提供を依頼し、後援申請時には誓約も求めています。



わたなべからの意見・要望

千葉市は、様々なイベントや国際会議が実施される都市であって、MICEの推進も行ってまいります。千葉市で行うイベントについては、多様な方々が安心して参加できるという評価を得られれば、他のイベント開催都市との違いを打ち出せ、さらには日本全国への影響も与えられると思います。是非民間事業者への理解啓発もお願いします。

▶▶▶ 中面に続きます



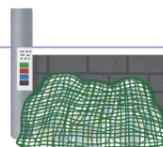
② 特別支援教育について



Q	小中学校に在籍する障害のある支援が必要な児童生徒のサポート体制について教えてください。
教育委員会からの回答	各学校で特別支援教育コーディネーターを中心に支援体制を整え、実態把握や教育的ニーズに応じた支援を行っています。令和6年度は、特別支援教育指導員を延べ88人、介助員を25人の児童生徒に配置し、スクールメディカルサポーターを14人の児童生徒に派遣しました。
Q	現在、学校の日常生活に保護者が付き添う場合があるのか伺います。
教育委員会からの回答	本人・保護者の希望や、安全面等への配慮のため、保護者が付き添うケースがあります。
Q	校外学習や宿泊体験学習など、学校行事での支援はどのように行っていますか。
教育委員会からの回答	校外学習・宿泊体験学習等に介助員サポーターを派遣しています。医療的ケアが必要な児童生徒には、校外学習でメディカルサポーター、宿泊時は訪問看護等と調整して対応しています。「安心して参加できた」という声もあり、引き続き適切に支援します。
わたなべからの意見・要望	私個人の経験ではありますが、普通学校に車椅子で通っていましたが、学校外行事の際には、学校から保護者の付き添いをお願いされていました。サポート体制は行事含め、以前に比べて充実していることが確認できました。ただ、当事者の希望や安全のため学校に保護者が付き添うことがあることもわかりました。 支援ニーズ把握のためなど必要に応じて、学校内の保護者付き添いについても調査をしていただければと思います。

③ カラス対策について

Q	千葉市では現在どのような被害が報告されていますか。
環境局からの回答	4月～7月の繁殖期に、親鳥による威嚇・攻撃、鳴き声、ごみステーションでのごみの食べ散らかし等の被害が発生しています。
Q	市の取組はどうなっていますか。
環境局からの回答	市ホームページで、巣を作らせない対策や威嚇行動から身を守る工夫等を紹介し啓発しています。また、巣から落ちたヒナの捕獲も行っています。ごみステーション対策として、町内自治会やマンション管理組合へ防鳥ネットの無償貸与を行っています。
わたなべからの意見・要望	カラス対策についての情報を引き続き周知していただければと思います。 市民の方から、巣を早めの時期に撤去してもらいたいという意見も伺いました。巣立つ前の対応が重要かと思しますので、適宜対応をお願い致します。



④ 郷土博物館について

Q	リニューアルの特色を教えてください。
教育委員会からの回答	「陸と海・人とモノを結ぶ『千葉』」をテーマに、「千葉氏展示」に加え、古代から近現代までの通史展示を常設展示に導入しました。時代ごとのテーマカラー設定や、順路を示す「ダイナミックライン」の導入により、迷いにくく展示に集中できる動線を確保し、入りやすく使いやすい施設に刷新しました。
Q	リニューアル後のユニバーサルデザイン面では、どのような工夫がありますか。
教育委員会からの回答	分かりやすい動線、見やすい高さでの展示、通路幅の確保、高齢者や色覚障害のある方にも配慮した色彩計画等を導入しています。従前からスロープ・段差解消、エレベーター、多目的トイレ等も整備しており、今後はピクトグラム掲示等も検討します。
わたなべからの意見・要望	配慮を行っていることを評価いたします。場所が限られている中ですが、大きい博物館より、配慮も行き届きやすいのではないかと思います。 せっかくリニューアルされるのであれば、多くの方々に知っていただき、観光資源としての役割も強化されることを期待いたします。



① 市民活動(NPO等)への支援について

Q	市内のNPO法人の数はどのくらいで、増加傾向にあるのでしょうか。また、活動分野はどのような領域が多いですか。
市民局からの回答	市内を拠点とするNPO法人は本年11月末現在で378団体。直近5年間で48団体増加しています。主な活動分野は、保健・医療・福祉の増進、子どもの健全育成、社会教育の推進などで、複雑・多様化する地域課題の解決に取り組んでいただいています。
Q	「まちづくり応援寄附金制度」は、登録団体の中から寄附者が応援したい団体を指定して寄附を行い、市が団体へ交付する制度で、ふるさと納税による税控除も受けられます。開始から5年が経ちましたが現状はどうですか。また、市民活動支援センター等の支援体制について教えてください。
市民局からの回答	昨年度は年間146件・約1,100万円の寄附が寄せられ、前年度より約200万円増となるなど支援の輪が広がっています。市民活動支援センターでは、団体向けに情報提供や相談対応を行い、人材確保ではボランティア募集を「チーム千葉ボランティアネットワーク」等へ掲載する支援も行っています。
わたなべからの意見・要望	まちづくり応援寄附金制度について、活動を応援したいけれど、忙しかったり、あるいは高齢で体力的に参加が難しいという、そんな方にとっても有力な選択肢の一つになると思います。引き続き、制度について周知を図っていただきたいです。市民活動支援センターについては、私が13年前にNPO法人を設立した際、活動を広げるために何から手をつけてよいか分かりませんでした。その前身となったセンターを含め相談に行き、様々な方々につないでもらうことで活動を進めることができました。市民活動支援センターやチーム千葉ボランティアネットワークに今後も期待します。



※②市立特別支援学校の名称変更については表紙ページで説明したので割愛します。

③ 障害者の移動の安全確保について

Q	「道路のバリアフリー整備計画」における整備の考え方について伺います。
建設局からの回答	高齢者・障害者団体等とまち歩き点検を行うなど、利用者の意見を反映しながら整備を進めています。生活関連経路では、横断歩道部の段差解消や、視覚障害者誘導用ブロックの連続設置等に取り組んでいます。段差は車椅子利用者の安全確保の観点から1cmを目安とし、誘導ブロックはJIS規格で視認性の高い黄色に統一。支障物を置かないよう注意喚起シートを設置するなどの工夫も行っています。
Q	「道路のバリアフリー整備計画」の取組み状況について教えてください。
建設局からの回答	段差解消や誘導ブロック設置は、千葉都心地区など22地区で整備を進め、5地区が完了しています。年度末までに、段差解消は計画の80%、誘導ブロックは73%の完了を見込んでおり、今後も計画に基づき整備を進めます。
Q	道路に設置されている市管理のエレベーターは、安全確保のためにどのように点検・更新されていますか。
建設局からの回答	専門業者の有資格者により、年1回の法定点検に加え、月1回の点検を実施しています。消耗部品は必要に応じて交換し、安全に利用できるよう維持管理しています。あわせて、令和元年度策定の維持管理計画に基づき、計画的な更新も行っています。
Q	ホームドア以外で、現状できる駅の安全対策はどのようなものがありますか。
建設局からの回答	駅の段差解消は、市が費用の一部を補助するなどして推進しています。京成電鉄では新千葉駅・大森台駅でスロープやエレベーター整備を進めており、完了すれば市内鉄道の全駅でバリアフリー経路が確保される見込みです。千葉都市モノレールでも誘導ブロックの改良や点字案内設備の整備を進めています。さらに、サービス介助士資格取得や、必要な方への積極的な声かけなど、ソフト面の取組みも強化しています。
わたなべからの意見・要望	新千葉駅、大森台駅でのスロープやエレベーターの設置は、中央区住民にとって長年の願いであり、市内鉄道の全ての駅で、バリアフリー化された経路が一つ以上確保されているということで、障害者や高齢者が安心して移動できる街に大きく近づいたと思います。ソフト面での対応も重要だと思えます。 引き続き、鉄道事業者と連携して、ソフト面含め、安全対策をお願いします。また全般として、移動支援や同行援護などの障害福祉サービスの充実を図ることも移動の安全につながりますので、引き続き取組をお願いいたします。

